

とうえいCS 中間報告

令和6年9月資料3

	成 果	課 題	今後の展望
学 校 運 営 協 議 会	・昨年度からかかわる委員が多く、各委員がそれぞれの立場で真剣に考え熟議に参加してくれている。 ・研修に主体的に参加したり、事前に考えをメモして熟議に参加したりした。 ・「子ども」について考えるのを機に、「自分たちも」「大人も」という意識が芽生えてきた。 ・「熟議」により、問題意識や当事者意識が高まることが分かってきた。	・メンバーが達成感を味わうところまで深めることができていない。 ・熟議を深めるには時間が足りない。 ・防災やスポーツなどの委員は、活動したいという思いがある。その思いを十分生かし切れていない。 ・中心であるべき「子ども」の実態がつかみ切れていない。	・運営協議会を1回増やして「とうえいCSの理念」について、しっかり熟議する。 →R7は、年間6回 ・R7の委員改選に合わせて組織の見直し（地域学校協働本部との連携）を進める。 ・9月中に「子ども」についてのアンケートを実施する。（小5～中3、PTA役員、教職員） ・学校評価、CSメンバーの評価を実施し、今年度を総括し次年度につなげる。
地 域 学 校 協 働 本 部	・CD、推進員という窓口がはっきりしたことで、新規の活動や依頼が増えた。学校との調整も行い、学校側の負担も軽減できた。課題等も伝えやすくなった。 ・「笑顔」「誇り」というキーワードや活動のねらいをできる範囲で共有したことで、活動の進め方が具体的になった。 ・4年生「福祉」では福祉課・社協と、年間の見通しや各活動のねらい、進め方等を何度も打合せして共有し、お互いにとって有意義な活動になっている。	・メンバーの役割が不明確で、年度当初に共通理解して以降、活動の場が持てていない。 ・児童・生徒にCSの説明が十分できていない。 ・保小中の段階を意識したカリキュラムの作成が必要である。	・「木育」「ホタルの散歩道」等、関係者が集まってミーティングする機会を設定する。 ・R7以降の組織改変に向けて、活動をつなぐハブとなる人材を呼び込む。 ・教職員とともに、段階を意識したカリキュラムを作成する。（R7）
そ の 他	・SCだよりと東栄チャンネルで、タイムリーな情報発信を心掛けた。 ・コーディネーター、活動推進員として研修に参加し、新たな知識や情報を得ることができた。	・情報が地域にいきわたったとは言えない。デジタルによる情報発信も必要である。 ・地域の声を聴く機会が持てていない。 ・学校教育活動だけでなく、放課後活動や地域活動も視野に入れていく必要があることが分かった。 ・持続可能な仕組みづくりのための見直しが必要である。 ・地域拠点や地域コーディネーターの必要性を感じる。	・文化祭に合わせてCSコーナーを設け、町民の声を聴く場とする。 ・放課後活動の実施に向けて生涯学習係と連携し、方法の検討を始める。 ・長期的な方向性の下に、1年ごとの目標を定めていく。 ・中学卒業後も継続して東栄町にかかわることができるよう仕組みづくりをめざす。